

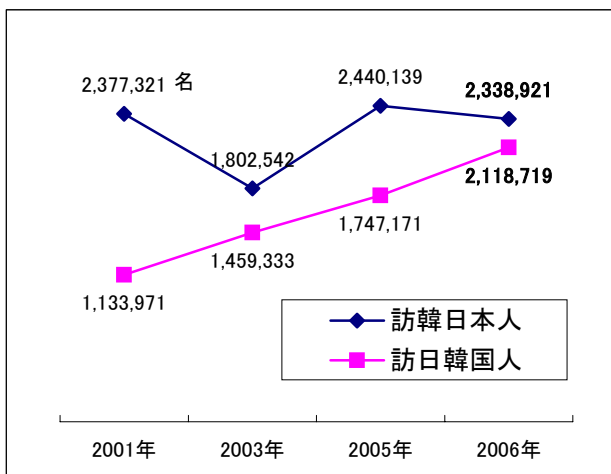
ウォン高円安のインパクト

ソウル駐在員事務所
秘書 洪 承 元

先日、友達がずっと欲しがっていた電子製品を日本で買って来ました。税関で税金を払っても日本で購入するほうがずっと安いそうです。円の価値はここ数年で劇的に変化し、2004年には100円=1,100ウォンだったのが、現在は100円=780ウォンです。ここ数年にわたる円安がもたらした消費パターンの変化を、少しでも紹介してみたいと思います。

韓国観光公社と日本国際観光振興機構によると、2006年日本を訪れた韓国人は211万名で2001年の2倍に肉薄し史上最大を記録。反面、訪韓日本人は233万名で2001年水準にとどまりました。韓国では週休2日制の定着もあり、このままていくと今年は逆転するかもしれません。

VISAカードの使用額推移も、2006年4半期韓国人が日本で使ったVISAカード使用額は7047万ドルで前年対比29%も増加し、反面日本人が韓国で消費した金額は9794万ドルで16%も減少しました。



資料：韓国観光公社、日本国際振興機構



海外旅行客で賑わう仁川国際空港

日本の現地オークションやイーベイ等オンラインショッピングモールと連携し、ゴルフ用品、釣具、自動車チューニング用品を代行購入し韓国に配送する事業が急成長を遂げています。

韓国市場に拡散している日本製品の代表例に食料品が挙げられます。ほとんど日本現地で作られたものであり、為替の影響を直接受けるからです。

ある大手百貨店では06年末に輸入食品売場の面積を4倍拡張しリニューアルオープン。しょうゆ、各種ソース、日本そば等取扱品目が1500品にも及ぶ大型調味料売場になり、その売場の半分を日本の食料品が占めています。

百貨店側はここ3年間円安が続き、日本製の食料品価格が10%程度下がり、韓国の消費者が国産品との価格差をそれほど感じなくなったようですとの説明です。

現在の為替水準がいつまで続くのかわかりませんが、韓国では以前に比べるとずっと日本が身近に感じるできるようになったと言えるでしょう。